

## 一疊半のドヤから

日雇労働者になって、何年になるだろうか。はじめて、釜ヶ崎にきた時と、今と、自分の中で何か変わったものがあるのだろうか。オレって、どうなっていくのだろうか。

毎日、朝四時三十分頃に、目が覚める。仕事に行く時も、雨の時も、二日酔いで今日は休もうと思っても目が覚める。

枕もとにしている、ずりつと前の所の、会社勤めのしていた時の、今はたった一つ残った腕時計も競艇に負け、仕事にあぶれたとき、質屋にもっていったら、二千円貸してくれた。今はガラスがキズだらけでもう貸してはくれないだろう。

ドヤもあちこち変わったが、センターにほど近い、一日四百円、一疊半の部屋にきめて、もう二年になった。何

より安いのが良い。

出づら現金四千五百円で、一割以上のドヤ代だと、シンドイという気が身にしみている。これが、五百円であろうと、六百円であろうと、一日の出づらから見ると、シロウチュウ一ぱいか、ビール一本多くのまなければ、三疊の部屋に休めて、寝返り打つても、身体をぶつけないですむものであるが、五日分のこと、仕事にあぶれた時のことを考えると、その差額は五百円或は千円となり、いつもドヤ代と、めし代と、飲み代におわれている身にとっては大金である。

オレの一日は、センターに行くことから始まる。

センターの二階でめしを喰う。めし大百円、玉アカ八、十円、玉子焼八十円、計二百六十円。近頃は朝からカレ

鈴木 景久

ライス百八十円、玉アカ八十円、計同じく二百六十円。まず朝喰べておかないと、土工雑役、建築カタツケの仕事は、肉体労働なので、人なみにできない。よくオケラになった時、昼まで二日酔と共にふらふらで働くが、腹がへるといふ飢餓恐怖感、いつものことであるが、いやなものだ。

でも今では、朝めし昼めし付きの人夫出しのところも知っているし、千円だけは、タバコ代朝めし代にドヤにおいて、ギャンブルに或は飲み代に、はたくようになってた。これも生活の知恵が、ついたのだろう。

仕事が多いときは、センター横づけの手配師の呼び込みによって、どれにでもものついていく。仕事の内容はどこも、何日間か続けていくと似たようなものであるが、昼めしはひどいがある。ポリエチレンのバックに、めし中位の量と、オカズは焼魚ひときれ、シオコブ少々、うめぼし一つ、これは、犬もネコもよけて通る昼めしだと、その日はじめてあつた仲間と言ひ合うことで、互に苦笑しい、それでも全部喰べる。

ところが、仕事がなくなった時に、手配の車がきても、仕事にいきり、現金いこうと、声かけてくれなくなった。顔づけというやつ。毎日いつている人、手配師が気にい

の一ぱいは、なんといつてもうまい。

どうせ働らかない、西成のアンコだといふことで、こきつかわれただけに、腹がへっている時の一ぱいのビール、この冬の季節のアンカン、身にしてみる。この一ぱいでまた晩酌程度で、めしくえば、釜ヶ崎を知らなかつただろう。次の一ぱいも、またうまい。

酒のあてに酒と、飲むほどにうまくなるから泥酔してしまう。

明日への何のつながりも責任感もあたえられない一日だけの仕事で、肉体労働の切り売りにおいて、朝目が覚めて、二日酔の頭で考えることは、反射的に、何の束縛もためらうもなく、休んでしまふ。

何の保証もない日雇労働者の特権。三時三十分過ぎに休み、そしてその日にまた、オケラになる。

仕事中に、右腕が曲らず、痛いことに気づいた。一月ほどほっておいたが、仲間から医療センターにいつてみたらといわれた。俺としては、その時、日雇保険もなかったし、まして医者にかかる金など、一円もあり得ない。しかし、この痛さに、ままよどりにでもなれという気で、医療センターに行き、金出来たら支払います、というサインで、診察を受けた。

っている人のみ、車にのせていく。これにはまいった。いくら出づらが安くても、いつも仕事があつて、声かけ、てくれる所を、みつけなければならぬ。それでこの夏は、一つの現場に終るまで働らいた。

一つの現場にいつて、自分で少しでも良いと思つたらその現場につめることが、優先的に仕事にありつく。それと明日の仕事の内容がわかっているという事は、知らぬ現場にいくより、朝の気分を楽にしてくれる。

仕事にあぶれた時、金がなくなった時、飲み代もなくなった時、俺だつて子供の事、いなかの事、父母に育てられたこと、前のことを思い返すことはある。

俺も会社に勤めていて、ボーナスを貰い、家もあり、妻も子供もいた。あの団塊とかいうやつのある家庭があつた。時々思い出す。でも後悔だけはしない。俺の生き方の流れは、生まれた家、子供の時のしつけ、学歴、そして出合った人によって影響をうけ、自分できめて、こりなつてきたのだから。

アルコールづけになつて、十六年位になるかな。ビール、酒、シウチュウ、ウイスキー、その時と場所と、持ち合せによつて何でも飲む。でも、仕事が終わつてから

単に腕の関節に水がたまつていふと思つていた。医者も水をぬいてくれたが、血の検査をしようといわれた。

腕の動かないこと、水のたまつていふことと血液の検査とは、無関係と思つたが、金がないのにやつて貰ふことなので、黙つて受けた。次の日から仕事にいき、十日ほどあつて仕事にあぶれ、腕は前より動くようになった。だが、結果だけ聞きに行こう、ゼニ催促されたら困るなあと思ひながら出かけた。ゼニの催促はなかつたが結果は、君は痛風だ、このままだと腎臓を犯され尿毒症になり、統計によると四十四才までの寿命だといわれた。痛風なんて、重役とか高給取りで、せいたくさんい

金持ちの病氣と思つていたが、腎臓週三、四、痛風の北の病は、こころにこころとつて、肉体労働に関係あるのかも知れんと思つた。医者によると、痛風は、もつて生まれたい質にもよるが、食事では、ホルモン、レバー、キモ心臓と、ビールと酒のチャンポンが、最も悪く、それらの常用者は痛風の予備軍で、一度かかると、血液の中の老廃物を体外へ排泄する薬を、一生のみつづけなければならぬといふことである。

痛風をおこす血液中の老廃物を、尿酸というらしいが、俺は今、九・二あり、通常、男子で六・〇なので、約五割増、まあ、痛風の平均寿命までにあつた数年あり、その



今日のシノギ代を、得るために。

めしが喰いたい、酒をのみたい、部屋でねたい。なん  
とわびしい要求ではないか。

しかし、こんなになつたのは、自分がなしたせいであ  
る。これを忘れ、問題をすりかえ、他のせいにするこ  
とだけはしてはならない」

ギャンブルで負けた次の日、センターの仕事にあふれ、  
ドヤのふとんにもぐって書いた日記だ。何百回同じこと  
を繰り返すのだろう。人間は一度やったあやまちは二度  
と繰り返さない、繰り返してはならないと聞かされ返え  
られてきたが、この俺には全くあてはまらない。

俺の骨のズイにあるものは、昔も今も全くかわつてな  
くて、年相応に態度がひなびて、生きているだけなのだ。

俺は骨を硬かないと直らない。

この骨を硬く日は、持病と酒によつてはやめてくれる。  
いや、骨焼く費用で、迷惑をかける。早くどこかの病院  
に、骨焼く費用として、解剖用に登録して貰おう。

ふりかえるに、俺の旅は、コップの様な器の中で、酒  
とギャンブルというヤクザなものから、何百回と叩きつ  
けられるために、生きてきたものだったのだろう。

もっと、ちがった旅を、どうして、あと数年でもしよ  
うと思わないのだろうか。

また、暮正月が、やってきた。

たくわえは、まったくくない。この調子だと、今年の正  
月はシノグるのかどうかわからない。コントロール出来な  
ない自分が、自分のことながら心配だ。でも、正月は  
正月の風がふくさ。